

三・一一大船渡・陸前高田写真展 大震災の現実と復興への歩み

★三月二日(火)～二七日(日)

午前9時30分～午後5時

(一七日は15:00まで)

★入場 無料

★名古屋市博物館ギャラリー

地下鉄桜通線「桜山」下車4番出口から徒歩5分

★座談会「写真が語る物語」

佐藤 叶さん(大船渡スタジオ)

三月一六日(土) 午後4時～

名古屋市博物館ギャラリー

トークコーナー

皆さんへ協力をお願いします。

☆写真展を見に来てください。

座談会にも大勢参加してください。

☆ボランティアスタッフを求めています。

※受付、会場係をお願いします。都合のつく時間です。平日大歓迎

※搬入、搬出を手伝ってください

搬入、設営 三月一日(月)午後1時～3時

撤去、搬出 三月一七日(日)午後3時～5時

今回は完全に単独開催でスタッフがたりません。

連絡は050-3462-9805

ofunatosien@zm.commu.f.jp 佐々木まで

☆運営資金カンパをお願いします。

今回の写真展の費用は四二万円ほどかかります。

内訳は 作品製作費(全く新規に作成するので多額になります。福岡でも開催されるので両者で分担します)、会場費、佐藤さん交通宿泊費、チラシ等印刷費、郵送費、パネル輸送費、同時展示物製作費などです。

現在準備している資金は三一万円あまりです。(あいちモリコロ基金からの助成金の写真展開催費用分+カンパを積み立てていたもの)不足分約一〇万円分を、皆さんのご協力で多少なりともおぎなえれば

と思います。

郵便振替口座 00810-9-207019

大船渡・陸前高田支援ネットワーク

II 大船渡を訪れてII

写真展打ち合わせを兼ねて一月一五、一六日大船渡へ行きました。今回は仙台まで夜行バスで行き、仙台でレンタカーを借りました。強い寒波ということで雪が多く積もっていました。岩手県でも比較的温暖な大船渡、陸前高田も全体的に雪景色です。例年にもまして厳しい寒波の冬ですが、大船渡など三陸沿岸の被災地に入るには内陸部から、峠越えがあります。道はかなり整備されているのですが、やはりいつものようにはいきませんでした。慣れていない自分だけでなく、地元の人たちもいやがっていました。あらためて、被災地の三陸沿岸への距離と大変さを感じました。

打ち合わせでは佐藤さん夫妻と長い時間、色々なことを話しました。

何点が写真展用の写真も見ました。自分たちがとっている写真はお金を得ようというのではなく、地域の人の生活や情景をとっているだけなのだ。だから今回の写真でも必要以上に悲惨なものを感じたくない。

岩手県大船渡市で気仙地方(大船渡、陸前高田)の人と自然をとり続けてきた佐藤尚義、叶さんの写真作品三八点を展示。

陸前高田市で津波に倒れずに残った一本松のほか、震災前に毎年夏に商店街で行われていた祭り、自宅の跡地に作った遊び場で無邪気に遊ぶ子どもたち、自然の中で撮影した七五三の様子など、日常生活のなかで撮った写真を展示。

佐藤さんは津波で壊滅した「大船渡スタジオ」を仮設住宅に住みながら再建を進めています。

座談会では佐藤叶さんが、写真にこめられた物語や震災後も日常の生活を続ける人たちの姿を紹介。

また写っている人もすべて顔見知りであり、その人たちとの信頼関係があるから写すことができる。その人たちが望まない形で一方的に発表することはできない。自分たちは報道カメラマンでも戦場カメラマンでもなく、地域の人たちと一緒に生きている写真家ではないということは何度も話していました。

さらに、写っている被写体はそれだけ見れば特に変わったものではないが、実は一つ一つに物語があるんだということも話しています。

※私の体験でも、被災地の様子を写しているとき、かなり遠くにいる人でも自分たちの方にカメラが向けられるというのを察知してスッと視野の外に動くことが何回もありました。

最初に被災地にはいったとき、周囲を埋め尽くした「がれき」の一つ一つが実は津波が襲う直前までぶつうに生活していた家財や道具や家々などであるということを実感させられました。これは遠く離れた地でテレビや新聞などの写真で「がれき」としてひとくくりに見ていたものとは全く違うものでした。そこで暮らしていた一人一人の生活を物語っていたのだと思います。

被災地では大型の重機や建設関係車両の姿が目立ちました。建設会社の事務所や資材関連や重機などの販売会社が多く進出していました。仕事にきている人たちの車のナンバーは色々な地域でした。(青森や山形など東北各地から多くきているようでした)

た)

仮設住宅でも少しづつ、新しい住居などに転出する人もみられるようになったそうです。しかし、復興住宅や住宅再建の目途がたつまでにはまだ数年かかるようです。住宅地は広大な空き地が広がっています。被災した大型の建物などが取り壊されているので余計そのように見えます。陸前高田市役所など大きな建物の撤去が始まりました。

市街地整備など数年は土木、建設などの景気はいいのでしょうか、一段落したあとのことが気になります。まだ復興への内在的なエネルギーが存在していた過去の津波災害の時とは異なっているように思えます。

私も一九六〇年のチリ地震津波の時、大船渡市内で、水に使った街を見ました。そのあと、高度経済成長の日本経済とともに大船渡は復興しましたが、今回の状況は全くちがいます。ただでさえ過疎化と高齢化が進んでいたのですが、今回の震災で進行が進みました。人口が減り続けています。陸前高田などは震災前から四〇〇〇人近く減って二万人になっています。

安倍政権の一次的バラマキ(復興予算の増額も)では結局、東京などに本社を構える、大手建設業や大企業のみが救われるのではないかと……多くの人が置き去りにされるのではないかと危惧しています。高速道路などの建設は急ピッチです。さらに復興に名を借った公共事業もあります。内陸部・奥州市からの峠越えの道はダム工事が進んでいます。全国

のダムと同じく名目をかえながら進めています。水利用から治水用になっています。県庁に勤めている友人は治水すべき下流部は川の氾濫ではなく津波で壊滅したと皮肉っていました。付け替え道路は復興道路に名を変えていました。

今回、できるだけ多くの人が被災地を訪れることが必要だということを思いました。観光といっても交通や宿泊などはまだまだですが、近い将来再び多くの人たちが訪れるようになるためにも、記憶を風化させてはいけなと思います。

岩手県の名古屋事務所にチラシを持っていきました。岩手県の観光用のポスターなども借りてきました。同時に展示します。大船渡などの被災や復興に直接関係ありませんが、少しでも、岩手や三陸などへの関心を抱いてもらって、被災地へ想いをつないでいく一助になればと願っての展示です。

震災後二年を経過した今回の写真展に一人でも多くの人が来ていただけることを願っています。それは岩手、宮城の津波被害だけでなく福島原発震災に苦しめられている福島の人々への想いをつないでいくことにもなると思っています。

(佐々木)